








パナソニックグループの企業市民活動について

～プロボノの取り組みを中心として～

2026年9月1日

パナソニック ホールディングス（株）
企業市民活動担当室
ソーシャルアクション推進課
東 郷 琴 子

Panasonic

パナソニックグループの概要

創　業　1918（大正7）年　3月7日

事業内容　家電や住宅設備をはじめ、製造・物流現場の機器やシステム、モビリティ・社会インフラを支える電池や電子部品など、日々のくらしやビジネスに貢献する製品・ソリューションを提供。

売上高　8兆487億円　（2025年度）

営業利益　2,364億円　（2025年度）

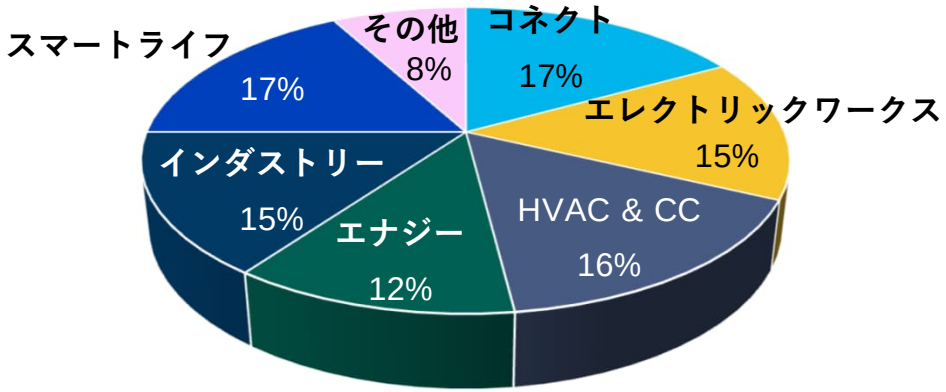
従業員数　183,685名　（連結）

連結子会社数　446社

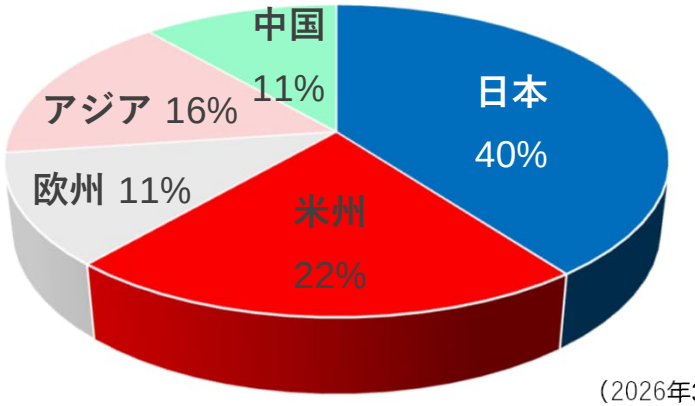
コーポレートブランド　Panasonic

ブランドプロミス　私たちPanasonic は、より良いくらしを創造し、世界中の人々のしあわせと、社会の発展、そして地球の未来に貢献しつづけることをお約束します。

＜セグメント別売上比率＞



＜地域別売上構成比＞



（2026年3月31日現在）

©Panasonic Holdings Corporation All Rights Reserved.
©Panasonic Operational Excellence Co., Ltd All Rights Reserved.

パナソニックグループの経営基本方針

基本の考え方

～事業を通じて人々のくらしの向上と社会の発展に貢献する～
社会の公器、お客様第一、衆知を集める、日に新た



1929年、創業者が制定。
あらゆる経営活動の根幹をなす



創業者　：　松下幸之助

企業市民活動の重点テーマ設定の背景　～昨今の社会課題と企業の社会的責任～

グローバルに認知されている社会課題と創業者の考えの両方から、優先課題を選定

サステナブルな共生社会の実現に向けた「貧困の解消」「環境」、
さらに、それらの課題解決のベースとなる「人材の育成（学び支援）」を重点テーマと設定

グローバルな社会課題

持続可能な開発目標（SDGs）では、
経済、社会、環境に関する目標が設定



パナソニックグループの経営基本方針

パナソニックグループの使命と今なすべきこと



「われわれ産業人の使命は貧乏を克服し、富を増大することであり、そのためにのみ、企業は繁栄していくことを許される」



私たちが「理想の社会」の実現を目指すには、時々の社会課題に正面から向き合い、その解決に貢献していく必要があります。中でも、**21世紀に最優先で取り組んでいくべきは地球環境問題**です。

企業市民活動の具体的な取り組み

貧困の解消
機会創出による課題解決



・無電化地域への支援
　LIGHT UP THE FUTURE
　みんなで”AKARI”アクション

・NPO/NGOの組織基盤強化支援
　Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs
　Panasonic NPO/NGOサポート プロボノ

環　境
会社と従業員による環境保全



・環境保全
　Panasonic ECO RELAY for Sustainable Earth
　みんなの生物多様性保全　Act for EVERY LIFE
　ブルーカーボン生態系保全　Act for BLUE CARBON
　社員食堂でのサステナブル・シーフード提供
　各事業会社での環境活動　など

人材育成（学び支援）
相互理解に基づく“サステナブルな共生社会の実現”に向けた学び支援



・子どもたちの学び支援
　キッド・ウィットネス・ニュース（KWN）
　パナソニック スカラシップアジア
　各事業会社・地域での活動　など



・従業員に対する 学びや実践の場の提供
　社会課題講演会（Social Good Meetup）
　災害ボランティア育成講座
　Panasonic NPO/NGOサポート プロボノ など

その他の取り組み
財団、芸術文化、科学振興、災害支援　ほか


国際科学技術財団
（日本国際賞）


パナソニック
教育財団


霊山顕彰会


日本工芸会


芸術文化支援


災害支援



福島『復興』応援
アクション

貧困の解消
人材育成

プロボノの背景：NPO/NGOの組織基盤強化支援

活動紹介サイト

- 社会課題の解決に取り組むNPO／NGOが持続的に発展するよう、組織基盤強化支援に注力
- 2001年に助成プログラムを設立、組織基盤強化の実践を支援するとともに、重要性・有効性を訴求

1990年代　自主プログラムにおいて市民活動団体と協働
1998年～　ボランティア･市民活動資金支援制度でＮＰＯを支援

2001年～ Panasonic NPOサポート ファンド　【環境・子ども・アフリカ】

子ども分野	（2001年設立）	179件	2億2,318万円
環境分野	（2002年設立）	150件	2億　742万円
アフリカ分野	（2010年設立）	38件	3,142万円

助成実績：367件　4億6,202万円

2018年～ 「Panasonic NPO／NGOサポートファンド for SDGs」 と改定

世界的な社会課題である**「貧困の解消」**に向けて取り組むNPO/NGOの組織基盤強化を
「海外助成」「国内助成」の2つのプログラムで支援。2025年度は16団体に2,650万円助成。



海外助成
63件　9,414万円
（2025年度：7件　1,150万円）



国内助成
76件　11,235万円
（2025年度：9件　1,500万円）

2001年からの累計：506件　6億6,851万円　助成

貧困の解消
人材育成

Panasonic NPO/NGOサポート プロボノプログラム

活動紹介サイト

■プロボノとは？

「公共善のために」を意味するラテン語「Pro Bono Publico」を語源とする言葉。
社会的・公共的な目的のために、**職業上のスキルや経験を活かして取り組むボランティア活動**

■パナソニックグループのプロボノの取り組み

プロボノの歴史・実績

2011年から実施
・企業プロボノとしては早い段階から活動開始、10年以上継続

422名の従業員が活躍
※2011年～2024年のべ人数

70のプロジェクトを実施
※2025年度以降は他社混合チームでのプロボノを推奨

プログラムの狙い

1. 従業員のビジネススキル・経験をさらに社会の役にたてる
2. サポートファンドで過去に支援した助成先を中心にプロボノで事業展開力の強化を支援
   ▶社会課題の解決をさらに促進

   ＜支援先の選定＞
   ・サポートファンド助成先
   ・企業市民活動の重点テーマに資する団体
   ・災害復興支援に取り組む団体
3. 社会課題解決に取り組むNPO支援を通じ、従業員のイノベーションマインドが高まることを期待

■プロボノプログラムの特徴（＝企業人からみた魅力）

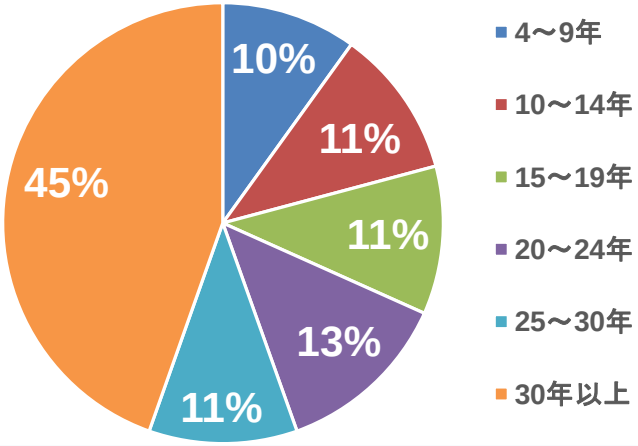
グループのメンバーとチームを組んで推進	● ４～７名程度でのチーム編成 ● 所属や役職、経歴が異なる多様なメンバーと推進
活動期間・ボリューム感があらかじめわかる	● 費やす時間は週５時間程度 ● 長期プロボノは約７カ月 ● 月2～４回程度のミーティング
全国各地から参加可能	● コロナ以降、オンラインでの活動がメイン ● 地方の団体も支援
達成感が得られる	● 成果物の納品をもってプロジェクトが完了 ※マーケティング調査、事業計画策定、営業資料作成、サイト再構築など
「プロボノ」を専門とする中間支援NPOが伴走	● 認定NPO法人 サービスグラントとの協働

Panasonic NPO/NGOサポート プロボノプログラム

■プロボノ登録者

幅広い「年齢層」や「職種」の方々の参加でDEIを体感

社会人経験年数



職種

- 企画マーケティング
- システム開発
- 宣伝、広報
- IR・営業
- 事務・アシスタント
- 経営企画
- 設計・開発
- 技術
- 新規事業開発
- SE
- 財務・会計
- 人事・総務
- 広告・グラフィック
- 技術管理

■主な支援内容

マーケティング調査(13)	中期計画策定（10）	営業資料作成（12）	ウェブサイト再構築（8）
業務フロー改善提案（7）	パンフレット作成（2）	データ整理・分析（1）	事業評価（2）
業務マニュアル作成（2）	寄付管理提案（2）	その他（2）	

＊対象：長期プロボノ61件

【事例紹介①】ファミリーハウスへの事業計画立案プロジェクト

◆プロボノへの期待とプロジェクト概要

NPOのニーズ	治療中の重篤な子どもも安心して過ごせる「理想のハウス」の計画策定を社会とともに取り組みたい
プロジェクト概要	2013年にパナソニックの社員9名が「理想のハウス」の具体化に 向けビジュアル化し、資金支援や人的支援を求める時に活用できるプレゼン資料を作成





・現状把握のため、
関係者23名にヒアリング



・各部屋に必要な仕様を言葉で表現
・理想のハウスの各部屋を絵で表現



・分類別に表現した内容を
イラストでイメージ化し、資料にまとめる

【事例紹介①】ファミリーハウスへの事業計画立案プロジェクト

◆成果物のイメージ：23ページの資料にまとめ提案

「わが家のような生活をちょっといい空間で送れるハウス」

【キーワード】
「プライバシーが守られる」「第二のわが家」「子育てを見守れる」「家族」
「楽しく過ごす」「安心・安全な家」「多様なニーズ対応」「活動しやすい」等



【居間立体図】



【ライブラリー】



【キッチン･リビング】



【プレイルーム】



【スタッフルーム】

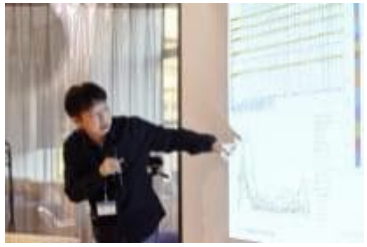
【事例紹介②】くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）への議事録データ整理・分析プロジェクト

プロジェクト概要： 熊本地震発生直後から、日々開催されてきた会議の議事録をデータベース化し、課題の整理・分析を、従業員6名が2017年10月から4カ月にわたり支援



11月　熊本現地訪問＆打ち合わせ





3月　大阪での最終報告会

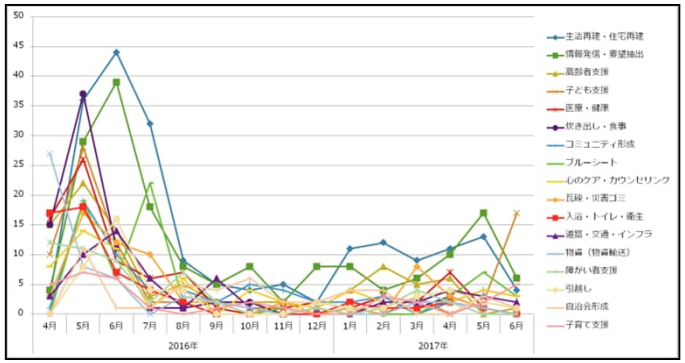


最終報告を終えてKVOADさんと

■成果物のイメージ（課題分類集計表）

行ラベル	入浴・トイレ・衛生	炊き出し・食事	給食支援	生活用水・飲料水	生活用品・日用品	生活家電	家具・什器・備品	防犯	道路・交通・インフラ	医療・健康	心のケア・カウンセリング	ブルーシート	引越し	生活再建・住宅再建	ボランティアバス	瓦礫・災害ゴミ	コミュニティ形成	まちづくり	文化財	自治会形成	移動支援	ICT支援	情報発信・要望抽出	物資（物資輸送）	避難所	福祉避難所	テント	在宅避難者	車中泊	仮設住宅（みなし含む）	行政（県・市）	社協（災害VC）	中間支援団体	NPO・VOO団体	個人ボランティア	子育て支援	子ども支援	高齢者支援	障がい者支援	外国人支援	ペット
緊急対応期	35	52	9	12	12	7	3	8	13	42	22	19	8	39	1	20	20	0	1	11	9	1	33	35	204	11	11	16	33	29	59	31	45	33	44	12	38	37	23	11	4
4月	17	15		10	5	2	1	2	3	16	8			3		3	1				4		4	27	65	5	7	7	23	5	8	9	7	10	11	5	10	15	12	6	2
5月	18	37	9	2	7	5	2	6	10	26	14	19	8	36	1	17	19		1	11	5	1	29	8	139	6	4	9	10	24	51	22	38	23	33	7	28	22	11	5	2
支援安定期	11	12	4	8	5	5	9	4	20	15	12	28	20	76	5	22	14	3	1	2	6	4	57	6	90	3	6	10	1	103	106	60	32	18	48	7	14	17	11	0	2
6月	7	11	3	8	4	3	5	4	14	9	11	6	16	44	3	12	10	1		1	4	4	39	6	69	2	4	7		71	76	40	27	16	27	6	12	14	9		2
7月	4	1	1		1	2	4		6	6	1	22	4	32	2	10	4	2	1	1	2		18		21	1	2	3	1	32	30	20	5	2	21	1	2	3	2		
仮設住宅移行期	2	5	0	2	2	1	2	6	8	8	10	2	4	18	0	4	11	2	1	15	1	0	21	6	24	1	0	1	3	81	30	32	2	4	30	3	5	9	9	0	6
8月	2	1					1	4	1	7	6	2	4	9		2	4	1	1	5	1		8	3	12				2	32	20	11	1	2	14		2	5	7		2
9月		2		2		1		1	6	1				5		2	2				4		5	2	5					34	6	10			7	1	2	2	2		1
10月		2			2		1	1	1		4			4			5	1			6		8	1	7	1		1	1	15	4	11	1	2	9	2	1	2			3
生活再建期	4	3	1	1	1	5	4	7	5	9	11	2	7	39	1	11	11	2	5	12	1	5	28	3	2	0	0	5	2	94	25	36	3	5	30	6	5	20	6	0	6
11月					1			3		1	2	1		5	1	2	4			2	1		2					1		20	4	3			1	1	1	2			2
12月						1	2	2	1	2	1		2	2			2			2		1	8	1				2	1	16	4	8	2		3			1	1		1
1月	2	1				2				1	4	1	1	11		1	2		2	4		1	8							14	3	10		1	10			4			2
2月	1	1	1			2	2	1	2	3	2		1	12			3		3	4		3	4		1			1	1	23	13	7		3	5	3		8	1		1
3月	1	1		1				1	2	2	2		3	9		8		2					6	2	1			1		21	1	8	1	1	11	2	3	5	4		
住宅再建期	4	4	3	0	0	1	2	1	10	10	10	16	9	43	1	5	14	2	0	7	1	1	50	4	2	1	1	6	1	74	15	55	12	14	61	8	27	7	3	0	1
4月	2	3				1	2		4	7	2	3	4	11		3	2					1	10	2	1	1	1	3	1	19		12	2	2	9			6	2		
5月	1	1	2						3	1	4	7	2	13		1	4	1		3			17	1	1			1		13	4	19	8	10	19	2	2				
6月									2		3	3	1	4			3	1		1			6					1		23	5	10			10	5	17	1			
7月	1		1					1	1	1	1			3						1	1		3							7	1	2	2	1	4	1	4				
8月													1	4	1		2						5	1				1		6	1	6		1	10		1				
9月									1			3	1	4		1	3			2			2							5	2	3			5		1				
10月														4									7							1	2	3			4		2		1		
総計	56	76	17	23	20	19	20	26	56	84	65	67	48	215	8	62	70	9	8	47	18	11	189	54	322	16	18	38	40	381	235	214	94	74	213	36	89	90	52	11	18

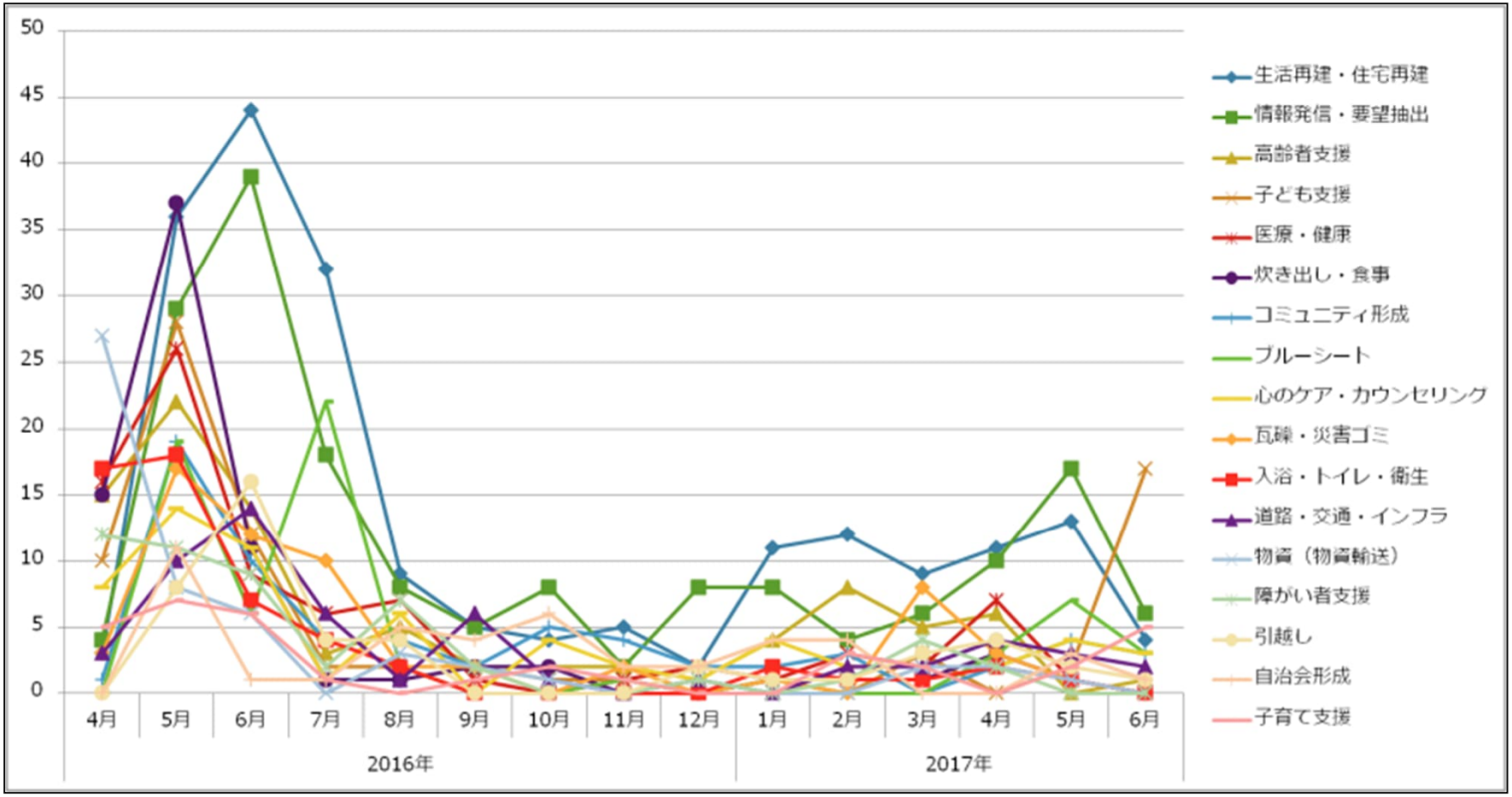
■成果物のイメージ（課題件数推移グラフ）



熊本震災復興活動における課題やノウハウを、次の被災地にも活かせるように

【事例紹介②】くまもと災害ボランティア団体ネットワーク（KVOAD）への議事録データ整理・分析プロジェクト

■成果物のイメージ（課題件数推移グラフ）



貧困の解消
人材育成

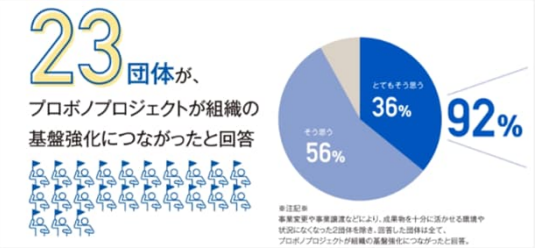
Panasonic NPO/NGOサポート プロボノプログラム

活動紹介サイト

- 2021年に過去の支援先、プロボノ参加従業員にアンケートを実施
- プロボノには、支援を受けるNPOだけでなく、参画する個人、推進する企業、それぞれに大きな価値をもたらす「三方よし」の特長がある

支援先アンケート結果から見えた成果

・事業収入や寄付、スタッフ、支援者の増加
・活動の可視化により、組織内の課題、ビジョンの共有が促進
・活動に対する自信、モチベーションの向上が実行力を後押しした
・外部との協働経験は、日常業務の中にも活きる



従業員アンケート結果から見えた発見

『プロボノ』は

・社会感度を高める
・多様性への理解や自己効力感・主体性を高める
・仕事にも活きる経験
・今後の自律的なキャリアを考えるスタート
・企業市民活動や自社への愛着・エンゲージメントが高まる



▼『**プロボノのススメ**』デジタルブックURLおよびQRコード
https://holdings.panasonic/jp/corporate/sustainability/citizenship/pnsf/probono/report_10th.html

■社会からの評価（受賞歴）

2017年「東京都共助社会づくりを進めるための社会貢献大賞」特別賞受賞

東京2020オリンピック・パラリンピックの成功に向け、ボランティアの機運を醸成することを目的とした同賞に**先駆的にプロボノの取り組みを行った**として「特別賞」を受賞



2022年日本フィランソロピー協会「企業フィランソロピー大賞」大賞受賞

社会課題解決のために自社の経営資源を有機的・持続的に活用した社会活動を顕彰する同賞において、組織基盤強化助成の取り組みとともに、**プロボノでNPOの事業展開力を応援したことも評価**され、大賞を受賞



ご参考：パナソニックグループのプロボノの取り組み

経験者の声、活動事例などをウェブサイトで紹介しています！

https://holdings.panasonic/jp/corporate/sustainability/citizenship/pnsf/probono.html









認定NPO法人　兵庫子ども支援団体
（兵庫県明石市）
パナソニックチーム6名が寄付管理を支援

ご清聴ありがとうございました

パナソニックホールディングス（株）サイト＞サステナビリティ＞企業市民活動



企業市民活動サイト

https://holdings.panasonic/jp/corporate/sustainability/citizenship.html